

教育長室だより

第 21 号

2020.7.17

新型コロナウイルスの感染が収まりません。緊急事態宣言が解除されるとともに人の行き来が活発化すると、やはり広がってきました。一般社会と同じく、学校はこれからも気を緩めることなく対策を続ける必要があります。

さて、今回の話題は子どもを“ほめて育てる”ということについて…です。

○

「子どもは叱って育てるよりほめて育てた方がいい」というのは、今ではずいぶん一般的になっています。わたしなどが育ってきた時代は「厳しくしつけることが大事だ」という考えの方が主流でした。でも今は、三つ叱るより一つほめる方が子どもの行動が良くなるというような考え方が、子育てや育児に関する様々な本や、テレビのコメンテーターの発言にもよく出てきます。

わたしもそう思ってきましたし（そうできてきたかどうかは別ですが）、今もそう思っています。

○

ほめることが子どもの指導になぜ有効なのかについては、たくさんのお教育学者や脳科学者がその理由を述べています。様々なことが言われていますが、一つだけ理解しているのは、子どもは（大人も）ほめられたときに脳にドーパミンという物質が分泌されるということです。たとえば子どもが進んでお手伝いをしたときに、大人からほめられたとします。そのときに子どもの脳にドーパミンが出されて、子どもはやる気や幸福感を得ます。本能的に子どもは（大人も）ドーパミンを欲しているので、ほめられた行動が必然的に繰り返される、つまり強化されるというわけです。

○

さて、今回言いたいことは、“ほめる”ということについてもう少し考えておかなければならないことがあるということです。

テレビなどでもおなじみの脳科学者、中野信子氏の『空気を読む脳』という新しい本の中に、“「ほめて育てる」は本当に正しいか？”という文章があります。そりゃあもちろん正しいでしょう…と思いましたがそう単純ではなさそうな書きぶりです。

彼女が何が言いたいことは十分に納得できることであつたので、是非紹介したいと思います。

○

30年ほど前にアメリカである実験が行われました。

実験内容

- ① 様々な環境で育った400人の子どもに知能テストを受けさせる。
- ② 採点后すべての子どもに「100点中80点だった」と伝える。

- ③ 子どもたちをA、B、C3つのグループに分ける。
- Aグループの子に「本当に頭がいいね」とほめる。
 - Bグループの子には「がんばったかいがあったね」とほめる
 - Cグループの子には何も言わない。
- ④ 全員に問題を二つ出し、一つを選んでさせる。一つは平均的な子ができないような難しい問題で、もう一つはほとんどの子がすぐできる簡単な問題。3つのグループの子はそれぞれどちらの問題を選んだか。
- 結果は Aグループ 65パーセントが易しい問題を選ぶ
Bグループ 10パーセントの子が易しい問題を選ぶ
Cグループ 45パーセントの子が易しい問題を選ぶ

実験の結果が面白い。Aグループの子どもたちはほめられてすごく意欲、やる気が出ていると思いきや、難しい問題に挑戦しようとする割合は、何もコメントされなかったCグループの子たちよりも少ないのです。中野氏の分析ではAグループの子たちは自分自身をほめられて、いい成績を期待を期待されていると感じ、いつの間にかプレッシャーを感じて簡単な問題を選ぶことが多くなるのだそうです。一方、結果でなく過程、つまり取り組み方をほめられたBグループでは意欲満々に難問に挑戦する割合が最も多くなったそうです。

○

確かにほめ方にもいろいろあります。「いい子だ」を繰り返すと“いい子”でなければならぬプレッシャーがかかるかもしれない。絵画の賞をもらって「絵の才能がある」と言われると次もうまく描かなければと思うのは当然かもしれません。

そう考えれば子どもの何をほめればいいのか、何をほめない方がいいのかが見えてくる気がします。

○

子どもたちの今の能力や才能をほめるのは考えものかもしれません。それよりも何かに取り組んだその努力や工夫をほめる…つまり、子どもの人格を評価するのではなく、行動や考え方をほめる…これが子どものやる気や意欲を伸ばすことになるのでしよう。逆に失敗したときも「やっぱりダメな子ね」などのような“人として”のだめ出しは自信や積極性を失わせかねない。行動の中のどこが失敗したかを気づかせるような言い方がいいのだと思います。

○

中野氏の紹介する実験はまだ続き、様々な示唆を与えてくれますが今回は省きます。

結局「ほめて育てる」は良いとして、ほめ方が案外難しい。そのほめる中身、つまり何をほめるかについてわたしたち大人は考えておかなければならないというお話でした。親どうし、また子どもの周りの大人どうし話題にしてみることをお勧めしたいと思います。